

学校経営推進費 評価報告書（最終）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現
評価指標	1 進路決定率の向上 2 基礎学力の定着度を測る外部学力調査における生徒学力レベルの向上 3 授業アンケートと学校教育自己診断における生徒の授業満足度の向上
計画名	野崎高校 生徒全員Jump Up! 作戦 ～ICT活用による授業改善と勉強しやすい体制と環境・雰囲気づくりにより、学力も進路実現もJump Up!～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 確かな学力への取り組み</p> <p>(1) 「わかる授業」「できる授業」により、基礎的・基本的な学力の定着をめざす。</p> <p>ア 学力の定着向上を図るための組織的な体制を構築し、ICT機器の積極的活用、習熟度別授業やグループ学習等の授業形態や授業方法の研究をすすめる、系統的・効果的な教科指導の確立を図る。</p> <p>イ 授業評価や研究公開授業・内外の研修等を通して、教員一人ひとりの「授業力」を向上させる。</p> <p>※生徒の授業評価、学校教育自己診断における学習指導における指標の生徒評価を上げる。</p> <p>2 卒業後の進路を見据えた3年間のキャリア教育・進路指導の実施</p> <p>(1) 生徒の社会的・職業的自立に向け、チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成するためのキャリア教育プログラムを実施する。</p> <p>※学校幹旋による進路決定率は常に100%を目標とする。理由のない進路未決定率は常に0%をめざす。</p>
事業目標	<p>授業改善の取組みにより、「ICTを活用した授業」の充実を図り、「視覚や聴覚に訴える」「板書時間の削減」等に取り組むことで、座学授業はもとより実験・実習を含むすべての授業で「生徒が集中力を切らさず、みんな顔をあげている『わかる授業』『できる授業』」の構築をめざす。</p> <p>それに加え、進路指導室に隣接した資料閲覧機能と自習室機能を合わせた「オープンラボ（仮称）」と各学年職員室に隣接したいつでも質問のできる「ミニサプリスペース」を整備し、常に進路実現を意識し、勉強に取り組むしやすい体制と環境・雰囲気づくりをすることにより、生徒一人一人の進路実現達成度を向上させる。（毎日活用）</p> <p>授業アンケート・学校教育自己診断の生徒の達成感・授業満足度を毎年5%向上させ、平成29年度末以降は80%以上を維持する。学校幹旋による進路決定率は常に100%を目標とする。理由のない進路未決定率は常に0%をめざす。</p>
整備した 設備・物品	<p>（展開教室・普通教室へのICT授業のための環境整備）つりさげ式短焦点プロジェクター（20、うち1は電子黒板機能付き）、ルーター（20）、ボード型電子黒板（1）、教室持ち込み用タブレット（20）</p> <p>（勉強しやすい雰囲気づくり：オープンラボとミニサプリスペースの設置）マグネットホワイトボードシート（9）、デスクトップパソコン（3）、カラーレーザープリンター（1）、テーブル（12）、椅子（24）、ホワイトボード（3）、パネルヒーター（3）、スタンド（10）、風よけパーテーション（2）</p>
取組みの 主担・実施者	<p>主担：Jump Up! PT （首席2名及び教職経験5年以上10年以下の教員24名の計26名、うち10名は運営委員会に所属）</p> <p>実施：全教員</p>
本年度の 取組内容	<p>Jump Up! PTを課題別の4グループ（①メディア活用（ICT・図書）授業充実、②授業交流・カリキュラム充実、③生徒主体の行事充実、④総合的な学習の時間・特別活動充実）に分け、主にグループ①②を中心に以下の取組みを推進した。①府教育センター「ICT活用推進者養成研修」での教員2名による実践事例発表（8月）②全教員相互の授業見学「OPEN CLASS」（9月・11月）。③各教科のシラバスをまとめた冊子の作成と各学年職員室への配置、新学年科目選択に向けたガイダンスでの活用（10月）④10年経験者研修受講者4名による公開授業・研究協議（11月）、⑤インターメディアイトセミナー受講者3名による公開授業・研究協議（11月）、⑥日本教育工学協会「全日本教育工学研究協議会全国大会和歌山大会」への教員1名の参加（11月）⑦ICT活用授業に関する情報交流を目的とした校内研修（12月）。⑧ICT操作技術の紹介を目的とした「メディア活通信」の発行（全9号、8月～1月）⑨各教科会での現行カリキュラムに関する意見交換（2月）</p>
成果の検証方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートにおいて、「授業を受けて、知識技能が身に付いたと感じる」「授業内容に、興味関心を持つことができたと感じる」を前年比5%向上させる。（平成27年度平均64.5%→平成28年度平均63.2%） ・学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」を前年比5%向上させる。（平成27年度61.3%→平成28年度59.5%） ・外部の基礎学力診断テストにおける生徒の学力レベルを前年比3%向上させる。 ・理由のない進路未決定率0%を維持する。（平成27年度0%）
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・7月（第1回）と12月（第2回）に実施した授業アンケートでは、「授業を受けて、知識技能が身に付いたと感じる」は64.9%→66.7%、「授業内容に、興味関心を持つことができたと感じる」は64.6%→65.8%に上昇した。平成27・28年度同様、第2回で第1回を上回る結果となった。2項目の全体平均は65.5%で前年比+2.3%であった。事業が開始した平成27年度以来最高の数値となったが、前年比5%向上の達成には至らなかった。（△） ・生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすい」は58.2%であった。学年別では1年66.0%、2年50.0%（1年次55.7%）、3年58.2%（2年次52.9%←1年次53.1%）。1年の肯定的評価が高く、3年では前年比+5.3%であったが、学校全体としての顕著な上昇には至らなかった。（△） ・教職員向け学校教育自己診断では、「コンピュータや視聴覚機器を授業で有効に活用している」が84.1%（平成27年度69.8%→平成28年度80.0%）となり、教員のICT活用が定着した結果が反映されている。（◎） ・外部の基礎学力診断テストで学力レベルが前年比で向上した生徒の割合は28.4%（2年19.2%、3年38.7%）であった（平成28年度2年18.9%、3年34.6%）。（◎） ・平成29年3月28日時点で学校幹旋による就職内定率は98.9%であり、1名が就職活動継続中である。また、理由のない進路未定率は0%である。（◎）
事業のまとめ	<p>3年間の事業推進により、多くの教科でICTを活用した授業が定着し、生徒の授業満足度・達成度が上昇した。また、教員間のICT活用や授業内容に関するコミュニケーションが活性化することで、授業間の連関性や系統性に関する議論が高まり、カリキュラム全体の再検討を進めようとする気運が生まれてきた。</p> <p>これを受け、平成30年度では、2022年度の新学習指導要領実施を見据え、3年間を見通した授業内容の検討、選択科目の設定を含めたカリキュラム全般の見直しに着手する。3年間のJump Up! PTによる実践を運営委員会・カリキュラム委員会等の既存組織に引き継ぎ、検討を継続する。もちろん、事業により展開された授業改善実践も継続する。具体的には、教員相互の授業見学を推進し、全教員による年間2回の授業見学を条件とする。また、年間5名の教員による公開授業・研究協議を実施する。さらに、地域の小中学校教職員と本校教職員による合同研究授業・協議会を実施する。</p> <p>以上の実践により、生徒の「学ぼうとする力」を高め、引き続き生徒の授業満足度・達成度、および進路実現率の上昇維持に努める。</p>